

◇令和元年度能勢町一般会計歳入歳出決算認定について

賛		否								認定
西河 巧	森田 則子	奥 久明	伊木真由子	平田 要	大西 則宏	長尾 義信	中西 顕治	岡本ひとし	中植 昭彦	長尾 義和
○	○	×	×	○	○	○	×	○	×	議長

注：議長は採決に加わりません。

【反対討論】 中西 顕治

公共施設再編整備事業、産業立地促進事業など、予算審議時には詳細未確定な事業に対し、当初から適切な事業説明や情報公開を求めていた。しかし、事前の説明も十分に行われたとはいえ、断片的な情報は出てくるものの、まとまった説明がないままの事業があることも審査の中で指摘した。よりよい町政をめざすならば、多様な意見を取り入れる姿勢が必要であり、異論が出る事業は練り上げる要素があることに他ならない。十分な情報公開を行い、異論も取り入れる度量をもって町政にあたるべきと再度指摘し、本決算に反対する。

【反対討論】 奥 久明

令和元年度、経常収支比率は100%を超え101.8%となった。公共施設再編整備に伴う起債分の償還や残された学校への対応費用等もかかり、豪雨災害や新型コロナウイルス等の突発的な追加費用があれば対応できる財政力はなく、さらなる悪化が予見される。今後は起債に伴う償還や経常経費の増加により行政サービスの維持には財政調整基金から取り崩すしか方法がなく、歳入につき自主財源確保の対応も進んでいると思えない。財政が厳しい中、住民サービスを低下させない健全な財政計画や具体的施策があるとは思えず本決算認定に反対する。

【反対討論】 伊木 真由子

老後を不安に思う住民が多くいる中、老後に抱える様々な不安を解消するような取組みは進んでいない。今行政に求められていることは、住み慣れた地域で暮らし続けられるように福祉を充実していくことであると考え。防災の拠点や福祉関係の拠点といった建物も必要かもしれないが、もっと内容が充実するように取り組むべきであったと考え反対する。

【反対討論】 中植 昭彦

本町の経常収支比率については、101.8%となり、財政の硬直化がより進んでいる。また、地方財源措置によって収入が増加しているが、残念ながらそれをもって資金の不足が予測され大変厳しい状況である。今後、公共施設再編整備事業をはじめとする起債に係る償還や廃校の学校建物、用地、廃止された公共施設の建物、用地の利活用、除却費用の発生や経常経費の更なる増加が見込まれ、さらに人口減少、少子高齢化、また新型コロナウイルス感染症拡大による影響など、自主財源の更なる減少が危惧される。前述の事項も踏まえ、健全な財政計画を示すべきである。

以上、本決算認定には反対する。

【賛成討論】 大西 則宏

能勢町の財政は、財源は将来の人口減少等を見こして、サービスの提供は現状の水準を継続していく、ということまで運営されている。本決算の審議内容において、住民福祉、教育、防災まで、そのような厳しい財政運営の中でも十分効果のあった決算であると認識している。また、財政収支についても、国の交付税引き上げにより財政調整基金の積み増しができる状況になっている。厳しいことには変わらないが、本決算を踏まえて能勢町を維持していくための十分な審議がなされたと考え本議案に賛成する。

【賛成討論】 平田 要

令和元年度は、公共施設再編整備事業で庁舎新築及び消防庁舎建築工事の着手。新たな取り組みの高度産業化・農業化を促進する事業や教育環境向上を目的にICT教育環境整備等が行われている。

実質収支は、昨年度とほぼ同額ではあるが、経常収支比率が昨年度より2.4%上昇し、初めて100%を上回る結果となっている。今後、厳しい財政運営が予測されるが、歳入において国庫補助金・交付金や地方債の有効な財源確保に努め、効率的・効果的な事業の見直しを行い、行政サービスを低下させることなく歳出の抑制に努める事を付して賛成する。